

# 化学・生物総合管理の再教育講座(講義内容)

後期

科目No.	553	科目名	コミュニケーション学事例研究4		サブネーム	市民とコミュニケーション		
共催機関名	NPO法人くらしとバイオプラザ21	レベル	基礎		講義枠	水曜日	講義時間	18:30~20:00
科目概要(300字)	市民とのコミュニケーションは対象が限られている場合とそうでない場合、学校教育のようにすでに仕組みができて参加者が集まっている場合とそうでない場合など、条件や環境が多様に異なっている。様々な分野における実際の活動を具体例として示しながら紹介し、「市民とのコミュニケーションのあり方」という切り口から、受講者とともに整理し、一緒に考えていく。							

サブタイトル	講義名	講義概要(150字)	講義日	教室	講師名	所属
はじめに	1 バイオの情報提供について	NPO法人くらしとバイオプラザ21で企画・実施している体験実験教室や談話会など双方向性のある活動を紹介する。さらに市民とのコミュニケーションという切り口で本講座で紹介される様々な活動の概要と本講座全体の進め方について説明する。	10月5日		佐々義子	くらしとバイオプラザ21
食における市民とのコミュニケーション	2 学校給食の現状と課題	定時制高校、小学校の学校給食における活動を通じて、食を考え、実践しながら見えてくる「食」のあるべき姿について紹介する。	10月12日		佐藤あけみ	神田(じんて)小学校
	3 食と食育	多くの人が自分の食生活を通じて、食を広く捉え、考える契機になるように編集・出版活動に携わってきた経験をふまえ、取材活動などにおける市民との関わりについて紹介する。	10月19日		三保谷智子	女子栄養大学出版部
	4 食と情報発信	ポストハーベスト、農薬、遺伝子組換え食品などを中心とした情報発信や催しの企画・実施を通じ見えてくる私達の食生活について、よりわかりやすく情報発信をどうしたらいいのかを考える。	10月26日		森田満樹	食品科学広報センター
	5 女性のための企画作り	主婦を中心とした女性達へのバイオテクノロジー、遺伝子組み換え食品などの情報提供は、生活者へのレベルに合わせ表現することが重要であることを、経験を踏まえて考える。	11月2日		石井みな子	パーティーフー
ビジネスにおける市民とのコミュニケーション	6 バイテク教材販売を通して見た日本のバイテク教育	バイテク教材キットの販売を通して見てきた日本の学校及び社会でのバイオテクノロジーに関する教育の実際を、ライフサイエンス研究支援をしてきた立場から紹介し、今後の発展について考える。	11月9日		笹川由紀	バイオラッド
	7 生活者視点に立った商品づくり	時代とともに、生活者の生活スタイルは変化している。生活雑貨の製造を通じて、生活者の意識や行動を把握してきた立場から、試行錯誤しつつ生活者とのコミュニケーションをし、商品(モノ)づくりをしていく過程の一部を紹介する。	11月16日		小島みゆき	花王生活文化研究所
	8 遺伝子組換え農作物と市民	日本の消費者への遺伝子組換え農作物に関する情報提供を行い、理解促進に努めてきた経験をふまえ、リスクとコミュニケーションのあり方について考える。	11月30日	1号館102	坂本智美	シンジェンタジャパン
ジャーナリズムにおける市民とのコミュニケーション	9 食とジャーナリズム ~情報のウソを見破る	食関連のジャーナリズムは、売れる情報しか流さないというマスメディアの構造的な問題と書き手の思い込みによって、往々にして大きくゆがめられている。報道をどのように見分け情報源として活用すべきか、また自ら情報発信する場合には何に注意すべきなのか、考える。	12月7日		松永和紀	科学ジャーナリスト
教育/研究における市民とのコミュニケーション	10 発展途上国の農業開発と遺伝子組換え作物	貧困問題・所得格差・人口問題など先進国とは異なる問題を抱えている発展途上国社会における「科学技術の革新と市民社会の関係」について、遺伝子組換え作物を事例に掘り下げる。	12月14日		山口富子	農業生物資源環境研究所
	11 東南アジアの農村と市民を結ぶ	タイ、フィリピン、インドネシアなどのファ-ミシングシステムや病害防除の研究から、農民と市民の、食の安全を介した関わりを考える。	12月21日		夏秋啓子	東京農業大学
	12 実験工房での活動を通じて	最先端科学技術を扱う科学館において、体験型展示物の一つとして位置付けられている「実験工房」の活動を紹介しながら、実験教室の講師として、様々な年齢層の参加者とともに試みてきた科学への関わり方を紹する。	1月11日		青木紀恵	(前)日本科学未来館
	13 体験・追求型教育プログラム	UCバークレイローレンスホールで研究・作成された科学と数学の教材であるGMES(Great Explorations in Math and Science)の日本での普及活動を踏まえ、感動を伝え個人の思考・判断力を伸ばし社会への理解深化を支援することの意義を考える。	1月18日		古川和	ティーチングキッズ
行政における市民とのコミュニケーション	14 バイオ産業への国民理解	化学業界、バイオ業界の振興・育成策を立案・実施してきた経験をもとに、経済産業政策の企画・立案の過程を一部紹介することによって、行政と市民のコミュニケーションのあり方について考える。	1月25日		行本治代	経済産業省生物化学産業課
まとめ	15 全講義をふりかえって	様々な事例を通じて、より公平な市民を交えたコミュニケーションのあり方について、全員の意見を出し合い、整理する。	2月8日		佐々義子	くらしとバイオプラザ21